

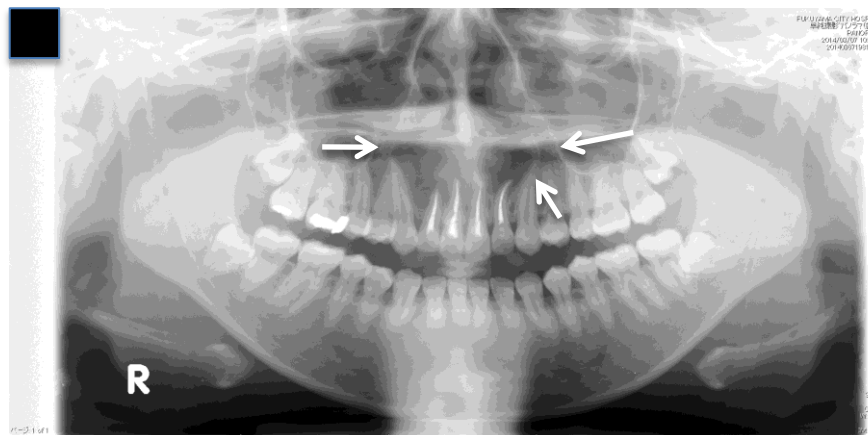
顎骨嚢胞は、顎の骨の中に発生する内部に液体を含む袋状の病的組織です。

原因として、歯髄(歯の神経)の細菌感染が刺激となって発生するもの(歯根嚢胞)、歯の形成に関与する成分から発生するもの(含歯性嚢胞)などがあります。

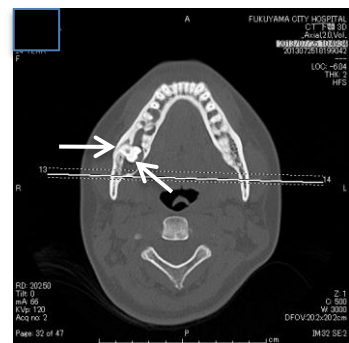
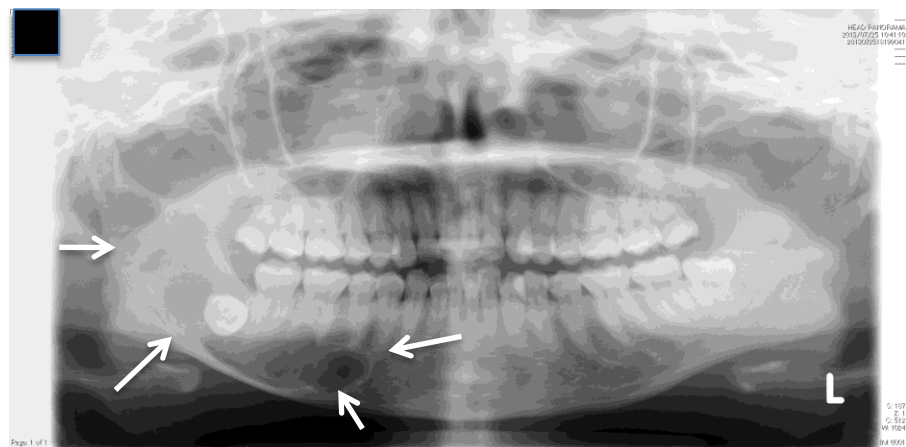
大きいものになると顎の1/3~1/2に達することもあり、わずかな外力で骨折する可能性もでてきます。

顎骨嚢胞の治療として、原因歯の治療や抜歯、嚢胞の摘出を行います。また、嚢胞が非常に大きい場合は、开窗療法という嚢胞壁の一部を切除して、内腔圧を除くことで嚢胞の縮小をはかった後に摘出を行うこともあります。

## 歯根嚢胞



## 含歯性嚢胞



パノラマX線写真

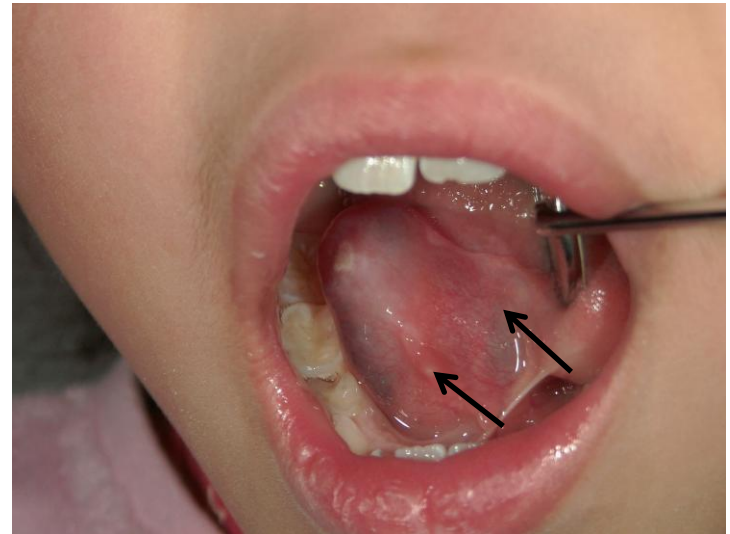
パノラマX線写真

CT写真

口腔軟組織にできる嚢胞は、主に口唇・頬粘膜や舌の下面に発生します。  
先天性の嚢胞(類皮嚢胞, 類表皮嚢胞など)や、唾液の流出障害により生じる嚢胞(粘液嚢胞やガマ腫など)があります。  
増大に伴い、摂食・嚥下や会話に障害を生じることがあります。  
治療として、開窓療法や嚢胞摘出術を行います。



粘液嚢胞



ガマ腫